

SUNSHINE

第38号 2009年 5月発行
 有限会社 太陽開発
 鹿児島市荒田2丁目43-19 TEL099-255-3623
 E-Mail master91@taiyou1991.com
 URL http://www.taiyou1991.com/



太陽開発

検索 クリック!!

賃貸マンション(オーナー様)をご紹介します!

オーナー 山口様

今回取材させていただいたオーナー様は、「メゾン・シンシア」荒田二丁目にある1Kの学生さん向けの賃貸マンション(現在満室★)をお持ちの(有)ヤマヨシの社長である山口さんです。
 お話をお伺いしての印象はとてもパワフルな印象を受けました。失礼な言い方かもしれませんが70歳代とは思えないくらいバイタリティーに満ち溢れていました。山口さんの日課は毎日スポーツジムで2時間トレーニングすること、その後にお酒を飲む事だそうです。これが元気の源かと思いました。
 (有)ヤマヨシは「らんま・神棚・木製工芸品」を主に販売しています。私は賃貸営業を通じて様々なお部屋を毎日拝見しておりますが、賃貸マンションの洋風化の影響でほとんど拝見する機会がありませんでした。今回の取材で木の特性の温もりを感じました。また沢山の種類の多さに驚かされました。必ずしも和室の続き間に「らんま」を入れなくてもお部屋の装飾として洋室のお部屋とのコラボレーションとしても斬新だと思います。「カッコイイ」「らんま」を見つけましたので写真を載せました。「らんま」に少しでも興味のある方は足を運んでみてはどうでしょうか。安いものは1万円くらいからあるそうです。詳細は下記のこちらまで @

(有)ヤマヨシ
 TEL 099-255-5311
 鹿児島市荒田2丁目63-1



メゾン・シンシア



こんまえ、よかふに来っ児島どんがやってきて、「川越さん、こいなんとがあった」と、申込み書を持っつくれました。「そいはないな〜」とたんねたら、「かごつま弁検定」の申込書お〜。初級、中級、上級があっせえ、試験にとおったら「かごつま弁博士」の証が送ったつど、受けつみらんどかい」というこつでした。「いけなん問題があつとな、ちょこつと見せてん」…

- 問 題:
- 鹿児島弁らしい、楽しい鹿児島弁を()に入れなさい。
- ①この香水は良い匂いだよ。ほら()でござん。
 - ②ガラスが()から壊れた。
 - ③台風がまっすぐやってくることを、台風が「()来っ」と言います。
 - ④寄りかかることを「壁に()る」
 - ⑤ボタン便所で跳ね返りをもらいました。そこで一言。「()」
 - ⑥わたしも仲間に()してください！」
 - ⑦さわって欲しくないときに一言！「そん！商品を()で下さい！」

みんな解いやったどかい？

みなさんの鹿児島弁は何級でしょうか？

鹿児島弁は他の九州各地の方言と比較しても極めて特徴的な言葉です。その為に「故意」に標準語とは全く異なる方言を使うことで情報の漏れを防ぎ、幕府の隠密の侵入を難しくする目的で薩摩藩がつくったという説があるそうです。これからますます日常生活の中で昔ながらの鹿児島弁を使って生活するのは困難になると思われます。しかし、鹿児島弁を絶やさずに、次世代に引き続く為に、私の提案として、鹿児島弁を用いたさつま狂句を学校の授業に取り入れたらどうかと思います。

『鹿児島弁、小め時の我を、思い出せっ』



追 伸:
 韓国に行った時、私の妻はさかんに鹿児島弁で「あによ、早よせいよ」を連発していました。鹿児島弁も役に立つもんですね！

ホルモン屋

今回は、騎射場公園の隣にあります焼肉屋「一風堂」の姉妹店にあたるお店のご紹介です★



焼肉だれ



濃厚塩だれ



豚の丸腸



骨付きカルビ

豚のあばらのお肉で、ジューシー♪

極旨！！ビールにピッタリ



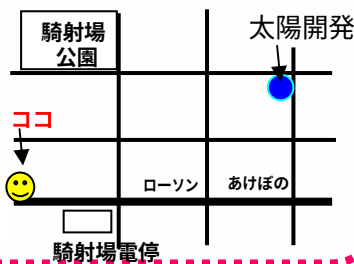
今回ご紹介のお店は、前号でご紹介致しました牛の焼肉店「一風堂」さまの姉妹店で、豚の焼肉専門店「ホルモン屋」さま☆豚の直腸(テッポウ)、舌の根元(ゼツコン)、胃袋(ガツ)など、お肉の種類も豊富です♪なかでも、イベリコ豚がイチオシ商品ですよ〜★お肉は七輪で炭火で焼きますので、ジューシーで香ばしく、美味しくいただけます♪是非お試しください！！



焼肉・ホルモン屋
 TEL 099-206-6754

営業時間 ★年中無休★
 17:00〜24:30 (24:00 OS)

鹿児島市荒田2丁目76-7



今月の一冊 TUGUMI つぐみ



病弱で生意気な美少女つぐみ。彼女の育った海辺の小さな町へ帰省した夏、まだ淡い夜のはじまりに、つぐみと私は、ふるさとの最後のひと夏をとにもする少年に出会った…。少女から大人へと移りゆく季節の、二度とかえらないきらめきを描く、切なく透明な物語。
 第2回山本周五郎賞受賞
 (中公文庫「TUGUMI」の裏表紙より)

吉本ばなな

1964年東京生まれ。詩人・思想家の吉本隆明の次女。87年『キッチン』で海潮新人文学賞を受賞デビュー。以後、88年『キッチン』で泉鏡花文学賞、同年『キッチン』『うたかた/サンクチュアリ』で芸術選奨文部大臣新人賞、89年『TUGUMI』で山本周五郎賞、2002年『不倫と南米』でドゥマゴ文学賞を受賞。海外での評価も高く、91年にはイタリアで『キッチン』がベストセラーとなる。他の著作に『ハチ公の最後の恋人』『ハネムーン』『王国』『イルカ』『海のふた』などがある。

『つぐみ』の初版は1989年。当時、美しい表紙に惹かれてハードカバーを購入、いっしょに読んだ事を覚えています。あれから20年、最近になって、二十歳になる息子が「『つぐみ』面白いよね」と言うので、改めて読み返してみました。作品の中でとても心に残っていたのは、病弱で小さな町から出る事も出来ないつぐみに、恋人の恭一の言った言葉。「君の心は丈夫だし、君は気骨があるから、ずっとここにいても、世界中を旅してる奴よりたくさんものを見ることが出来るよ」…将にそこなんですよ、私の今のテーマは！世界中を旅してみたいけど、現実には無理。しかし、日常生活の中でも、常にいろんな事に気付き、見る事が出来る感性を持てるよう、心掛けたいものです。『つぐみ』の本来のテーマからは外れているかもしれませんが、20年振りに読んでいて改めて感じた事です。

